

劇団あはひ

2022. 4. 3-10

青年団リンク

やしゃご

2022. 7. 6-17

世世

東京芸術劇場

eyes plus

2022

タカハ劇団

2022. 7. 20-24

玉田企画

2022. 9. 23-10. 2

東京芸術劇場 が 注目する才能

コロナ禍で生活が変わって2年近く経ちますが、劇場で作品を発表するハードルは上がったままです。とりわけ若い世代には厳しい状況で、こうした中ではやらない選択も、ネット上などで作品を発表する選択も、重要な意味があります。それでも劇場で上演することを選んだ団体には、だからこそできるだけ多くの、そして新しい観客に出会ってほしいと考えています。「演劇は何を観ていいかわからない」「おもしろい劇団が知りたい」「名前は聞いたことがあるが、足を運ぶ機会がなかった」といった声に応えたいと、数ある若手から選び抜いた「芸劇eyes」と、「芸劇eyes」で好評を得た劇団からさらなる飛躍を期して再登場してもらった「eyes plus」。2022年度は各2組というラインナップで、スタイルも題材も見事に異なる顔ぶれとなりました。「芸劇eyes」の「劇団あはひ」(発音は、あわい)は、大学在学中から注目と評価を獲得していた若い劇団で、主に古典をベースに、生と死の繋がりを静かに浮かび上がらせます。「やしゃご」は、いわゆる社会的弱者の見えづらい事情や言葉にならない心情をさり気なく深く物語に織り込みます。「eyes plus」の「タカハ劇団」は、アニメ『魔法使いの嫁』やドラマ『ここは今から倫理です。』の脚本で注目される高羽彩が率いる団体で、'13年の「芸劇eyes 番外編」以来の登場です。「玉田企画」は、日を追うごとに当日券の人数を増やした'20年の公演を経て、待望の再登場です。全組ご覧いただけたら最高です。 徳永京子

芸劇eyes

削ぎ落とした要素の掛け算で、彼岸と此岸をふわりと結ぶ。

劇団あはひ

「Letters」 2022. 4. 3 (日) -10 (日) 作・演出: 大塚健太郎

2018年に旗揚げ。

1998年生まれの6名によって構成されるアーティストグループ。

東西の古典を大胆に引用し、現代の会話劇としてリミックスする手法が高く評価されている。

片隅に佇んでいた人が口を開く時、小さな声は深く届く。

青年団リンク やしゃご

「きゃんと、すたんどみー、なう。」 2022. 7. 6 (水) -17 (日) 作・演出: 伊藤毅

劇団青年団の俳優、伊藤毅による演劇ユニット。

人々の生活の中にある喜びと悲しみを忠実に描くことを目的に、

誰も悪くないにも関わらず起きてしまう答えの出ないもやとした問題をテーマにしがち。

やしゃごの由来は、「なんだかんだ、可愛がられると思って」。



「Letters」(2021)

撮影: bozzo



「きゃんと、すたんどみー、なう。」(2017)

撮影: bozzo

eyes plus

「なぜ？」を燃料にした灯りで、人の心の不思議を照らす。

タカハ劇団

「ヒトラーを画家にする話(仮)」 2022. 7. 20 (水) -24 (日) 作・演出: 高羽彩

高羽彩が脚本・演出・主宰をつとめるプロデュースユニット。

日常に普遍的に存在しているちいさな絶望や、どんなに壮絶な状況でも変わることのない人間の些細なあり方、

生き方を笑い飛ばしながらすくい取る、リリカルでクールな作風が特徴。

「あれは私だ」と思いながら爆笑してしまう玉田マジック。

玉田企画

「玉田企画新作(仮)」 2022. 9. 23 (金・祝) -10. 2 (日) 作・演出: 玉田真也

玉田真也の作品を上演するための演劇ユニット。2012年より活動開始。

日常の中にある、「変な空気」を精緻でリアルな口語体で再現する。

観る者の、痛々しい思い出として封印している感覚をほじくり出し、その「痛さ」を俯瞰して笑いに変える。



「僕らの力で世界があと何回救えたか」

撮影: 深沢飛鳥



「今が、オールタイムベスト」(2020)

2022

詳細は随時各劇団、劇場HPで発表いたします。 ※日程等は変更になる可能性があります。

本チラシに関するお問合せ: 東京芸術劇場事業第2係 03-5391-2115

東京芸術劇場 〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111 JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。(駅地下通路2b出口と直結しています。)

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre



芸劇が目する
才能たち、



いつもと違う、
をプラスする。

www.geigeki.jp